

# KA教育3D研究会主催 『第7回情報交換会』開催レポート

ダイジェスト版

## 「道徳教育の歴史と今後の方向性」をテーマに講演

### 学習指導要領改定による道徳教育の今後の展開を考察

2008年6月7日（土）、東京都文京区湯島にあるホテル東京ガーデンパレス（湯島会館）にて、第7回目となるKA教育3D研究会主催「情報交換会」が開催された。今回は、過去最高となる52名が参加する中、3D教育プログラム導入を検討中の学校からの参加もあり、同プログラムへの必要性の高まりを感じさせる今回の情報交換会となった。



第1部の研究会では、「中学・高等学校におけるこれまでの道徳教育の歴史と今後の方向性」と題して、国立教育政策研究所・教育課程調査官である谷田増幸先生の講演が行われた。講演ではプロジェクターを使用し、パワーポイントによる解説をしながら、道徳教育の歴史や、今後の展開、各校における考え方などが詳細にわたり紹介。

特に、先生たちの興味を引いていたのは、「各教科、各科目が、それぞれの特質を踏まえながら、道徳性を育む」という内容で、講演終了後の質問が出るほど、この点に関する先生方の関心の高さが伺える。



また、その後は情報交換会では、「各学校における教育プログラムの活用」とのテーマに沿って、進行の片倉敦先生（順天中学校・高等学校教頭）が「包み隠さず良い所を言って頂き、学校に持ち帰って改善をして頂きたい。各校が、ますます良い使い方、生徒に対して良い教育が出来るよう、考え、おこなって参りたい」と述べると、8名の先生が、学校における取り組みや、問題点など、それぞれの状況の意見交換が行われた。日頃、知り得ない他校の取り組みなどが聞け、充実した情報交換会となった。

終了後の第2部の懇親会では、冗談も飛び交うほど和やかな雰囲気となり、各先生達が親睦を深め、全体として大成功の感が強い充実した情報交換会となった。

## KA教育3D研究会会長挨拶 順天中学校・高等学校教頭 片倉 敦先生

## 社会が求める『3D教育プログラム』の本質 今後益々の充実に期待

今日は、こんなにも多くの方に来て頂いて、私も、本当に感激しております。

この会を始めた時は、5～6校から、確か10名ちょっとだったと思うのですが、それが、会を重ねるごとに、段々と増えて参りまして、今回は50名を超える規模となりました。これも、社会が、3D教育を求めているのだと、常々感じております。

私共の学校も、この教材を使わせて頂いて、7年目になりますが、非常に定着し、本校では「グルコミ」「エゴグラム」という言葉が飛び回っている状況でございます。こういう意識の中で、教育をしていくことが大事なことはないかと思っております。

特に昨今、「道徳教育」が非常に叫ばれております。本校の中学では、この「グルコミ」を使って、道徳教育の教材化をしていく取り組みを始めております。

今回、国立教育政策研究所の方から、教育課程調査官の谷田増幸先生を迎えまして、「道徳教育」のお話を伺えるということは非常に勉強になりますので、私自身も楽しみにしております。



また、その後の「実践報告会」では、各先生方の“取り組みの良い所をお互いに共有”しあっていきたいと思っております。

それが、この会の目的でございますから、包み隠さず良い所を言って頂き、学校に持ち帰って改善をして頂きたい。

各校が、ますます良い使い方、生徒に対して良い教育が出来るよう

う、考え、行なって参りたいと思っておりますので、是非ともご協力のほど、よろしくお願い致します。本日はどうもありがとうございました。

## 講演会『中学・高等学校におけるこれまでの道徳教育の歴史と今後の方向性』 (内容要旨) 国立教育政策研究所 教育課程調査官 谷田増幸先生

昭和 22 年、学習指導要領の一般編で、「社会生活においての良識と性格とを養うことが極めて必要である」という目的のもと、社会科が新設。道徳教育が社会科を中心に実施されるようになったが、その後の度重なる改定により、「児童・生徒の内面的な道徳的実践力を育成するために設けるものであるために、教科にはせず(中略)自立性を基本として道徳的価値の大切さについて、児童・生徒らが自覚を深めるものである」という内容に整理できると、谷田先生は、道徳の時間の性格をまとめた。



その上で、今回の講演は、教育課程の改定に関わった道徳の時間についての内容となった。今年 1 月 17 日に発表された中央教育審議会答申では、教育内容の主な改善事項が七つあり、その一つの「道徳教育の充実」の中にある「三つの改善の基本方針」に触れている。三つの改善の基本方針は以下の通り。

●道徳教育の理念を確認して、取り組むべき重点を明確にする。●学校段階、学年段階で、道徳の時間の改善を明確にし、高等学校での道徳教育を充実させる。●体験活動を推進。特に、学校だけで出来るものではないことは、家庭や地域と共通理解を持ち、連携を充実させる。

以上の答申の内容を踏まえ、今年 3 月末に告示のあった「中学校学習指導要領」の、第 1 章「総則」と、第 3 章「道徳」で、特に変更点について説明されている。

総則の部分で、今回、新たに加えられた「道徳の時間を要として」「生徒の発達段階を配慮して」という文言に着目し、今回の学習指導要領では、「道徳教育が要である」というメッセージが、以前より強く訴えられていることを上げている。

道徳の部分に書かれている「道徳の目標」は、今までのコンセプトと基本的には変わっていないが、「道徳的価値及びそれに基づいた人間としての生き方についての自覚を深め」という文言が付け加えられたことにより、小・中・高に対する道徳の時間の特質・狙いをより明確にさせることが可能になったという。

例えば、小学校では「生活のなかでの葛藤や、感動、悩みを持ったときに、自分の生き方を考えられるようにする」

中学校では「人間とは何なのか？生きるとはどういうことなのか？人間として生きる自覚を深めていく」

高等学校(現行版)では「先哲の思想を踏まえながら、自分の生き方と照らし合わせて考えるなど、他者の考えを取り入れられるようにする」

そして、その運営方法として「校長の方針の下に、道徳教育の推進を担当する教師として『道徳教育推進教師』』という形で、その役割を担う人を学習指導要領上、明確に位置づけ、全体計画や、年間計画、或いは様々な道徳の時間の指導の場面で、道徳推進教師を中心に、学校全体として、さらには、国語・社会・数学などの各教科においても、各教科別に道徳教育を推進していく大切さを訴えた。



## 実践報告会

### 各参加校から教育プログラムの効果的な活用法の意見

#### 実践報告会テーマ

『各学校における教育プログラムの  
効果的な活用』

進行：片倉 敦先生（順天中学校・高等学校教頭）



片倉 敦先生（順天中学校・高等学校教頭）



関本 恵一先生  
（台東区立上野中学校校長）



笠間 陽弘先生

（自由ヶ丘学園高等学校）



野崎 裕二先生（大妻中野中学校・高等学校）



関根 弘人先生

（昭和女子大学附属昭和高等学校・昭和中学校）

今回の実践報告会では、片倉先生の進行のもと、8名の先生方より、各校における「3D教育プログラム」の活用方法、取り組みについて報告が行なわれました。特に、効果的な取り組みについての報告に関しては、他の学校の先生の参考になる内容が多く、「貴重な意見が聞けた」との感想が数多くありました。また、今後の課題や展望についても話が触れ、次回の情報交換会へ向け、更なる充実を期すことができましたと思います。各先生の情熱がとても感じられた実践報告会となりました。



鈴木 良和先生（国士舘中学校）



佐藤 元美先生

（昭和女子大学附属昭和高等学校・昭和中学校）



森下 弘文先生（駒場学園高等学校）



清水 洋一先生  
（明星中学高等学校）



# 懇親会



懇親会場にて撮影した参加者全員での記念撮影(写真上)



出  
来  
る  
・  
大  
丈  
夫  
・  
大  
成  
功

KA教育3D研究会  
2008. 6.7 KA教育3D研究会 第7回情報交換会

---

株式会社KA教育  
〒173-0012  
東京都板橋区大和町12-12  
03-6784-7675